

夜勤時の事故を派遣元社員が来るまで放置 労災責任を追及-日系ブラジル人らストで決起

今年7月13日午前4時頃、リフト操作無資格者によって起きた、足のかかと負傷事故の被災派遣労働者を食堂に放置し、同僚の派遣労働者が自分の車で病院に運びました。夜勤時は、派遣先のアサゴエの従業員しか現場におらず、帰宅していた派遣元ナイスプランニングの担当者が、病院に来たのは午前5時半過ぎ。同様のことは、今年6月19日にも起きています。

6月23日、「左小指熱傷」で60日通院加療と診断された労働者を5日有給休暇などで休ませ、翌日から「片手で軽い作業をせよ」と出勤させて、労災報告、申請をしていません。

中指末節骨骨折、また手切傷で17針縫った労働者を治療終了直後に仕事につかせ、1人は、その後傷口が悪化して休業しています。

これは、会社が労災扱いせず休業補償がなく、健康保険にも加入していなかったため傷病手当金もなく無収入となるために、否応なく働いているものです。また、「皆勤手当」が1時間当たり200円(7月から150円)となっていることも影響しています。診断内容が通訳や翻訳がないために、よくわからないものも多くいます。

組合は、9月20日に労災の対応責任、解雇撤



9月20日のアサゴエ御津工場でのストライキ

回などを要求し、4時間のストライキをし、労災対応は「派遣先に救急車を呼んでもらい対応する」など一定の前進を勝ち取りました。アサゴエも団体交渉をして、「労災に責任を持って対応している。労災隠しはない」との回答について、実際の調査報告、労災申請漏れの指摘を組合が出すなどを合意しました。

会社も指摘をされて労災申請をはじめ、7月13日に放置された労働者の認定がされました。

なくせじん肺全国キャラバン中国ブロック集結集会 —中国各県の県庁、労働局などに要請—

10月6日午前、岡山県立図書館でなくせじん肺全国キャラバン中国ブロック集結集会が行われ、中国各県から50人が参加しました。

ビデオ「トンネルじん肺患者の症状」を見た後、島根、山口、広島キャラバンの報告、島根原告団桐田団長の挨拶、岡山県労議長、重工労組玉野支部委員長、建交労労職中国ブロック部会長の連帯の挨拶のあと、中央労職部会及川事務局長が、闘争方針を報告。

午後、県、労働局、農政局への要請をし、キャラバンは翌日鳥取の要請を行いました。



訴え島根原告団桐田団長